

団体名	武庫川づくりと流域連携を進める会
河川名	武庫川水系羽束川
地点名(可能であれば)	羽束橋 兵庫県三田市 ^{こうずき} 木器



2013 年 調査風景



2015 年 環境・美化を訴える看板



2017 年 新調された美化看板



2015 年 底生生物調査

コメント:

羽束川は、武庫川流域圏で唯一他府県(大阪府深山)から流れ出る1支川である。調査地点に選んだ羽束橋は近代土木遺産、近代化産業遺産として国の有形文化財に認定されている千荷ダムの千荷水源地上流部にあたることからダムの影響評価を目的に選定した。当会では6月の全国一斉水質調査に加えて11月にも流域一斉水質調査を実施しているが、まだ評価には至っていない。三田市の北東山間部を抜ける武庫川流域で数少ないアユ釣り場であることから、川に立ち込んで安心して水質調査や底生生物調査ができ、今なお田園が広がる里の風景を色濃く残している。堤防上に地域の子供たちが記念植樹した桜が、毎年花を咲かせている。

団体名	武庫川づくりと流域連携を進める会
河川名	武庫川
地点名(可能 であれば)	武庫大橋 兵庫県西宮市小曾根



2013 年 アユの産卵床づくり



2016 年 河川の景観



2023 年 1 月 河川整備事業による河川改修工事中



2023 年 6 月 河川改修工事完了直後

コメント:

武庫大橋は、中央部分にバルコニーが設置された鉄筋コンクリート造りのアーチ橋で2006年土木学会選奨土木遺産に指定された「武庫川の顔」である。古くから暴れ川と恐れられる一方、摂津名所図会にも描かれている河原や堤防の松林の景観で知られている。もう昔のように清流とは言えないが、天然アユの遡上も見られ、行政・漁協・市民が力を合わせた産卵床づくりも行われていた。2010年から始まった河川改修では、景観・環境に配慮した工事が進められたが、素人感覚で完成後を危ぶみながら経過を追った。工事前後の風景に変わりはないように見える。「川は住みよいか、水は美味いか」写真に写らないアユに聞いてみたい。

団体名	武庫川づくりと流域連携を進める会
河川名	武庫川
地点名(可能であれば)	生瀬大橋 兵庫県西宮市生瀬



2019 年



2020 年 台風被害復旧ご緑の環境再生



2021 年 大型ブロック護岸に改修中



2023 年 道路整備事業と河川整備事業が完了

コメント:

2004 年の台風 23 号で生瀬大橋上流右岸側は護岸が削り取られ、カゴマット方式で復旧された。一時はクズで覆われ豊かな緑を取り戻したものの、2020 年から道路整備事業の一環として大型ブロック護岸に改修工事が施され、単調な風景に変わってしまった。コンクリートが年月とともに苔むして武庫川らしい風景に変わってくれるものと思いたい。生瀬大橋は、武庫川峡谷の出口で扇状地形の起点であることから武庫川の低水管理を適正に行うための基準地点に指定されている。古くから交通の要衝として栄え、歴史・景観・流量・水質管理の重要な地点であることから、水質調査ポイントに選定。流域市民目線で継続監視している。

団体名	武庫川づくりと流域連携を進める会
河川名	武庫川
地点名(可能 であれば)	宮前橋



2016 年



2018 年



2023 年



2023 年

コメント:

武庫川の上流にある「宮前橋」は田んぼの中の小さなお宮様の近くの小さな橋である。かつてこの橋の欄干は、コンクリートであったが経年の変化により石のような風情を創り出し、周辺ののどかで緑豊かな田園風景にマッチしていた。しかし、2018年頃に片側が白いガードレールに代わり、現在は両側が白いガードレールとなり、周辺環境にそぐわない残念な景観を形成してしまった。